

# 育児楽しむパパ増やそう



みんなで子育てできる環境を

子どもたちの笑顔のない笑顔や元気な声に、私は明るい未来を感じます。まさに、子どもは「社会の宝」、その社会之宝である子どもたちが、健やかに育つよう、2010年3月、子育て支援の5ヶ年計画「みんな育てることも夢プラン」を策定しました。このプランでは、「子育てを男女がともに担い、分かち合う視点」を基本姿勢のひとつとし、男女が仕事と子育てを両立できる環境づくりとして男性の育児を支援する職場環境づくりにも取り組むこととしています。私自身も3人の子育て真っ最中、昨秋には、第3子の誕生を機に育児休暇を取得しました。先頭に立って育メンを実践しながら、「子育てするなら広島県」で「全国」の皆さまから選ばれる県を目指し、全力で取り組んで参ります。

広島県知事 湯崎 英彦さん

育児経験 仕事に反映 榎本さん

パパの交流の場必要 北さん

スキンシップ大切に 高橋さん

育児の取得に工夫を 佐々木さん



## ひろしまイクメン 応援キャンペーン 2011

積極的に子育てを楽しむ「イクメン」が脚光を浴びています。広島県では、湯崎英彦知事が育児休暇を取得して全国的にも話題になりました。少子高齢化や共働き世帯の増加が進む中、広島県の男性が子育てにも自然に関われるようになれば、今よりもっと温かく住みやすい地域社会が実現するのではないのでしょうか。中国新聞社は4月から、育児に取り組む男性を後押しして地域を豊かにするための「ひろしまイクメン応援キャンペーン2011」を展開します。そのキックオフ企画として、子育てに熱心な各界の父親が実体験を踏まえ、イクメンを取り巻く現状と課題について話し合いました。(コーディネーターはメディア中国編集部長・吉村知子)

- 出席者
- 広島県健康福祉局長 佐々木 昌弘さん
- 元広島県サッカー選手・野球解説者 高橋 建さん
- フアザーリング・ジャパン中国副代表理事 北 佳弘さん
- 中国新聞社報道部・安芸海田ステーション記者 榎本 直樹さん

一昔さんの周囲のイクメンがらから教えてください。高橋 私は17歳と15歳の娘がいます。もともと子どもが大好き、現役時代は遠征が多く、一緒に過ごせる時間は限られていたため、娘たちが幼いころはスキンシップを大切に接してきてきたつもりです。大野屋内総合練習場(廿日市市)での自主トレにもよく連れて行き、クラブハウスのお風呂に一緒に入って松田元オーナーにびびりされた思い出があります。

北 専業主夫しながら、父親の育児を支援するフアザーリング・ジャパン(中国FJC)のメンバーとして、パパ同士の連携を図ろうと活動しています。

榎本 長男を1月に出産した妻が産道の奥にあるため、食糧日の夜には広島から産道に専任するような生活を送っています。週末は長女(3歳)とずーっと一緒に公園に連れて行ったり、お風呂に入れたりしています。

産後の妻が新生児と娘の両面を見るのは大変だと思う。1月下旬から約3週間の育児休暇を取得しました。同僚が早く休ませてくれたのがうれしかったです。佐々木 私も6歳と4歳、2歳の男の子3人の子育て中です。指揮命令系統の一本化により、妻の負担を減らすこともできます。特に休日は外遊びや入浴で一緒に時間を過ごしています。

内面の变化もたらす 子育てで自分プラスになっていると感じますか。高橋 子どもと接するだけでパワーをもらえます。先日の前夜で眠れない時は、娘の寝顔を眺めて面やされていました。これまで子ども

もと娘の時間を過ごしてきたので、思春期の今でも嬉しくれます。榎本 大学生のころ、得着する新幹線の途中で子どもが近くにいるとイライラしていました。わが子ができた今では全然気にならないばかりか、「かわいい」と感じます。先日も公園に、補助輪がない自転車に乗り向かっている小学生がいました。思わず娘と一緒に応援している自分に気づき、内面の变化を感じました。

佐々木 職場ではとても厳しい上司でしたが、子育てを置けていく中で、部下にも大切な家庭があると実感し、接し方や考え方が変わりました。人は誰しも守るべき命がとて壊れやすくなります。イクメンが増えれば、確実に温かい社会になるでしょう。

北 次男が1~2歳のころ、後追いが激しくして困りました。また、今は年子の子供の多い方に戸惑っています。そんな時は、公共施設や大型商業施設内のプレールームで知り合ったママ友に相談しています。



高橋 建さん  
広島県サッカー選手、元広島県サッカー代表監督、フアザーリング・ジャパン副代表理事

高橋 遠征で不在が多かった私も、病気の子どもが病気の助けを必要とする場面でも十分対処できたといえます。一般的に、「子どもが幼い時は手を離すな、成長するに従って目を、そして思春期には心を離すな」とよくいわれます。親は負担が大いですが、苦勞が人と成長させてくれます。私もその経験をもとに生かそうと感じています。

背景には少子高齢化 厚生労働省も昨年、男性の育児参加を呼び掛けるプロジェクトを立ち上げるなどイクメンが注目されています。なぜ、今でもはやされているのでしょうか。榎本 共働き世帯の増加と少子高齢化が背景にあると思います。若年層が働いて社会を支える必要がある中、女性だけではなく男性も育児や家事を手伝わなければ、どの家庭も共働きは難しいです。そして、私自身には親世代よりもっと密接な親子関係を築きたいという思いがあります。父が警備員が多忙だったため、一緒に遊んだ記憶はほとんどありません。

北 女性の社会進出が目覚ましい今、男性が積極的に育児参加すれば「生きたい」に生きる「世の中」になり、少子化対策にもつながります。1970年代の高成長期は「母親が育児をするべき」との考え方が主流でした。

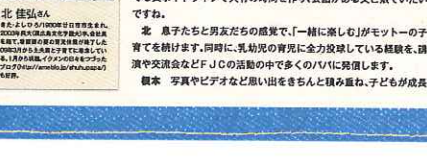
今では父と母と地域全体が協力して子育てしようという機運が高まっています。佐々木 女性が男性に「もっと育児を手伝ってほしい」と思っていただけで、実は男性自身も以前から育児をしたかったのではないのでしょうか。加えて、これまでの親子関係の元にもあるでしょう。社会の進化とともに、父親と母親がそれぞれの役割を互いに代替できる要素が増え、男性がイクメンという環境になったのではないのでしょうか。

北 佳弘さん  
フアザーリング・ジャパン中国副代表理事、元広島県サッカー代表監督、フアザーリング・ジャパン副代表理事

高橋 メンジャー挑戦で滞在した米国では、公園で家族連れをよく見掛け、フレンドリーな親子関係が素晴らしいと感じました。娘が成長しても食卓やドラッグで共有の時間を作り、会話がある父と娘でいたいのです。北 息子たちと男女だちの感覚で、「一緒に楽しむ」がモットーの子育てを掲げます。同時に、乳幼児の育児に全力投球している経験者、講演や交流会などFJCの活動の中で多くのパパに発信します。榎本 写真やビデオなど思い出をきちんと積み重ね、子どもが成長

した時に戻るの楽しみで育ったと実感できる環境をつくりたいです。育児の経験から学んだ視点も、これから書く記事にも反映させます。佐々木 息子たちがひたすら愛情を注ぎ、息子たちがまた周囲にその愛情を広げてくれたらいいと思っています。行儀マンとしては、多くの父親が別居し、自分の考えを軌道修正できる場づくりも課題の一つとして実践させたいです。また、今年度から保護者や保護者向けの医療講座を聞くなど育児講座の新しい企画も進めます。父親の子育て参加やそれを会社も工夫しながら休養させてくれる社会のムードを、早く醸成していきたいですね。一ありとうございました。

榎本 直樹さん  
中国新聞社報道部・安芸海田ステーション記者



高橋 メンジャー挑戦で滞在した米国では、公園で家族連れをよく見掛け、フレンドリーな親子関係が素晴らしいと感じました。娘が成長しても食卓やドラッグで共有の時間を作り、会話がある父と娘でいたいのです。

北 息子たちと男女だちの感覚で、「一緒に楽しむ」がモットーの子育てを掲げます。同時に、乳幼児の育児に全力投球している経験者、講演や交流会などFJCの活動の中で多くのパパに発信します。榎本 写真やビデオなど思い出をきちんと積み重ね、子どもが成長